令和8年度 新刊図書一覧

4月新刊図書

1『失われた貌』
著者：櫻田 智也
出版社： 新潮社

ミステリ×人間ドラマの金字塔
【本屋大賞ノミネート(2025年)】

2『夜があけたら』
著者：青波 杏
出版社：KADOKAWA

戦って、諦めて、もがいて、忘れようとして、傷ついて、傷ついていないふりをして、それでも、ここまで来た。
まだ続いている、わたしたちの物語。

３『うた子と獅子男』
著者: 古谷田 奈月
出版社：河出書房新社

夢もない、金もない。
与えられた身体ひとつで、人生を切り抜けろ。
「うた子、走れ！」

４『生きとるわ』
著者：又吉 直樹
出版社：文藝春秋

「生きる」とは、こんなにもやりきれなくて、
おかしい

５『石破くん』
著者： 橋 威智郎
出版社： 文芸社

「普通に愚直に生きてきた」
ある男の成長と葛藤、そして彼を取り巻く人々との
ドラマ

5月新刊図書

1『PRIZE－プライズ－』
著者：村山 由佳
出版社：文藝春秋

賞（prize）という栄誉を獰猛に追い求める作家・天羽カインの破壊的な情熱が迸る衝撃作！
【本屋大賞 ノミネート(2026年)】

2『暁星』
著者 ： 湊 かなえ
出版社： 双葉社

ただ、星を守りたかっただけ――
【本屋大賞 ノミネート(2026年)】

3『さよならジャバウォック』
著者 ： 伊坂 幸太郎
出版社 ： 双葉社

その怪物はあなたの中にもいるかもしれない。
数々の謎を引き連れて想像のつかないラストにたどり着く、著者渾身の長編ミステリー！
【本屋大賞 ノミネート(2026年)】

6月新刊図書

１『大ピンチずかん　※全3巻セット』
著者：　鈴木 のりたけ
出版社：小学館

誰もが経験したことがあるような大ピンチを「大ピンチレベル」の小さいものから順に紹介。あらゆる方向から大ピンチを解き明かす、ユーモアたっぷりの絵本です。ピンチはいつも思わぬところからやってくるもの。子どもも大人も、3冊あわせて読んで、突然のピンチに備えましょう！
【年間ベストセラー　総合第1位(2025年)】

２『イン・ザ・メガチャーチ』
著者：朝井 リョウ
出版社：日本経済新聞出版

令和日本の空気と、うごめきを小説に封じ込め、人の心を動かす“物語”の光と闇を炙り出す。
【第23回 本屋大賞 受賞(2026年)】
【第2回 あの本、読みました？大賞第1位（2026年）】
【第9回 未来屋 小説大賞　第1位（2025年）】

３『エピクロスの処方箋』
著者：夏川 草介
出版社：水鈴社

「医療では、人は救えないんだよ」
治せない病気は山のようにあるが、癒せない哀しみはない。
思想する医師・雄町哲郎は今日も京都の街をゆく――。
【第23回 本屋大賞　第4位(2026年)】

7月新刊図書

１『ありか』

著者：瀬尾 まいこ

出版社：水鈴社

母との関係に悩みながら、娘ひかりを慈(いつく)しむシングルマザーの美空と、同性愛者である義弟の颯斗が織りなす家族の物語。

【第23回 本屋大賞 第7位(2026年)】

２『おまあ推理帖』

著者：諸田 玲子

出版社：文藝春秋

江戸時代の浅草を舞台に、愛らしい老婦人おまあが殺人事件や怪文書、凶宅の謎など様々な難事件を解決する、ミステリー。

３『真木あかりの超実践　星占い入門　運を先取りする、使いこなせる』

著者：真木 あかり

出版社 ：主婦の友社

人気占い師が教える、超実践的な西洋占星術入門。自分の運気を先取りでき、個性や意思を活かしながら運気をポジティブに変える方法が分かります。

手元に置いて毎日開きたくなる、一生ものの星の教科書。

8月新刊図書

１ 『見えるか保己一』
著者：蝉谷 めぐ実
出版社：KADOKAWA
全盲の天才学者が感じたのは、絶望か希望か。
俊英の新境地にして大本命！
【第175回 直木賞候補作】
【第 39回 山本 周五郎賞 受賞作】

２『探偵小石は恋しない』
著者：森 バジル
出版社：小学館
そのひと言で、世界が一変する。
驚愕体験の本格ミステリ！
【第　4回 メフィストリーダーズクラブ大賞
第1位（2025年）】

【第12回 ミヤボン大賞 受賞（2025年）】

３『ブティック』
著者：池井戸 潤
出版社：ダイヤモンド社
暗夜を照らす、星になれ。
待望の最新作！

9月新刊図書

１『多類婚姻譚（たるいこんいんたん）』
著者：凪良 ゆう
出版社：講談社

一緒に生きられる？わかりあえない私たちは
【第175回 直木賞候補作（2026年）】

２『7、8月のストローク』
著者：長嶋 有
出版社：講談社

「新たな一歩」を踏み出す人々の、ひと夏を描いた感動作！
ままならぬ現実を生きる彼らのしんどさを、私たちはよく知っている。
けれど、ほんの少しの希望があれば前に進めることにも、私たちは気付いているのだ。

３『777（トリプルセブン）』
著者：伊坂 幸太郎
出版社：角川書店

そのホテルを訪れたのは、逃走中の不幸な彼女と、不運な殺し屋。そして――

４『ファーブル昆虫記(ビジュアル特別版)』

原著:ジャン＝アンリ・ファーブル

著者:古川 晴男

出版社:世界文化社

「見ることは知ることだ。」

ファーブルの情熱と探求心を現代の子どもたちに。

10月新刊図書

１『夜の恩寵（おんちょう）』
著者：三浦 しをん
出版社：集英社

夢のなかで生まれたものは、夢のなかに
還（かえ）っていく。
「カリスマ」をテーマに描き出される五つの物語。
その問いに答えてはいけない。決して。
夢か、うつつか。それとも――。

２『氷河期のゴミ』
著者：櫛木 理宇
出版社：講談社

「もっといい時代に生まれていたら」
社会の理不尽に苦しんだ事のある、
すべての人へ。

３『タイム・アフター・タイム』
著者：吉田 修一
出版社：幻冬舎

眩しい夏の初恋と、二十年後の再開――
あの日、二人は何を守り、何を手放したのか？

11月新刊図書

１『たかが五平餅　されど御幣餅』
　　著者：味岡 伸太郎
　出版社：春夏秋冬叢書

　　御幣餅発祥からの歩みと、各地で親しまれている
　　御幣餅の多用な姿、その諸説を記した書籍。

２『叫び』
　　著者：畠山 丑雄
　出版社：新潮社

　　満州から令和の関西万博へ
　　政（まつりごと）と聖を描く野心作
　　【第174回 芥川賞　受賞作（令和7年度）】

３『鬼がくれた奇跡　　父と娘、三十五年目の赦し』
　　著者：間﨑 由美
　出版社：幻冬舎

　　父は最低で、最高だった。
　　この父と娘の物語は、世界中にある。